

1．相手が、現地の人は何を解決したいのかを把握しよう

協力隊は2年(私はじめ教員現職組は1年8ヶ月)という期間が決められているせいもあると思うが、「自分が現地の人たちに対して何をしたいか」と考えがちである。しかし、自分本位に活動を展開してしまうと、偽善的、自己満足的な活動、自分がいるときは盛り上がりながらも自分がいなくなったら何もなくなってしまふ、現地の人に何も残らない活動になるおそれがある。

「自分が何をしたいか」ではなく、「相手が何をしたいのか」「現地の人はどういうことを問題と感じ、何を解決したいと思っているのか」を知り、現地の人のおもいにそって現地の人と一緒に活動を創っていくのがいいと思う。

2．現状把握・調査の方法

任地に入ったらいろいろなものを見て現状把握していくと思うが、ただ見るだけでなく、現状、問題点などをノートなどに書きとめていったほうがいいと思う。書きとめることで自分の考えが整理されるし、今後どう活動していけばいいかも頭の中で考えるよりはっきりする。

私は学校を巡回していたのだが、最初から、それぞれの学校情報(学年ごとの人数、教員数、時間割など)、現状、問題点、気づいた点などを書き込める用紙をつくっていけばよかったと思う。学校、授業を見る視点を決めているのといないのとでは、情報の入り方に違いがある。

任地に入ってすぐ最初のうちに、地図(任地の地図、対象の学校が入った地図など)、行事(年間地域カレンダー)、学校への行き方、学校事情なども整理しておく、活動を考える際にも実際に活動するときにもずっと有用である。

教育でない方も、地図と行事カレンダーは使えると思う。

3．活動の紹介

- ・自分の所属していた「PROMETAM・算数指導力向上プロジェクト」の活動紹介
 - ・同じ任地で行われていたもう一つ別の教育プロジェクト、「基礎教育総合支援プロジェクト」について、どういう活動をしていたのかを紹介
 - ・EUが行っていた、DECUMHという地域をまき込んで行われている教育プロジェクトを任期中に視察させていただき、とてもよかったのでそのプロジェクトの活動を紹介。
- 自分を追い詰めないで、楽しく、現地の人と一緒に充実した活動を創っていきましょう。